

BALENO

新型グローバルコンパクト

登場

スズキのコンパクト・ファミリーに新顔が加わった。その名はバレーノ。グローバル・マーケットを見据えて開発されたニューカマーは、スイフトの兄貴分ともいってもいいサイズで仕上げられ、ロー＆ワイドのスタイリングが魅力的だ。新開発のプラットフォームは高いボディ剛性と軽量化を両立させただけでなく、快適な移動を約束してくれる室内スペースの確保にも貢献。心臓部には定評のあるデュアルジェット・エンジンに加え、新たに1.0ℓの直噴ターボ、ブースタージェットエンジンを搭載し、低燃費ながら余裕のある走りを堪能できる。最先端のレーダーブレーキサポートⅡ（RBSⅡ）によるトップレベルの安全性能も見逃せない。次世代グローバルコンパクトカーの理想を目指したバレーノの魅力に迫ってみよう。



ディスタンスヘッドランプ (XT, XTセットオプション) リアコンビネーションランプ (XT, XTセットオプション) ハロゲンヘッドランプ (XG) リアコンビネーションランプ (XG)



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

スズキ

新型バレーノ

特集号

BALENO

先進安全性能でロングドライブをサポート
(RBSⅡとACCを標準装備)



XTは5月13日発売!

先進安全技術を標準装備

バレーノはスズキの誇る先進安全技術であるレーダーブレーキサポートⅡ（RBSⅡ）に加え、前車追従走行が可能なアダプティブクルーズコントロール（ACC）を標準装備。RBSⅡはミリ波レーダーで常に前方を監視し、衝突の恐れを感じた場合はブザー音などで警報を発し、それでも衝突が避けられないと判断した場合にはブレーキアシスト機能や自動ブレーキ機能により被害軽減をサポートしてくれる。またACCは自動的に一定の車間を保ち、高速走行時などの疲労軽減に効果を発揮する。その他にもスリップや横滑りを防ぐESPを標準装備し、新開発プラットフォームにより効果を高めた軽量衝撃吸収ボディTECTなどにより全方位の安全性を確保している。



ACC表示 ACCスイッチ

マルチインフォメーションディスプレイ (XTセットオプション)

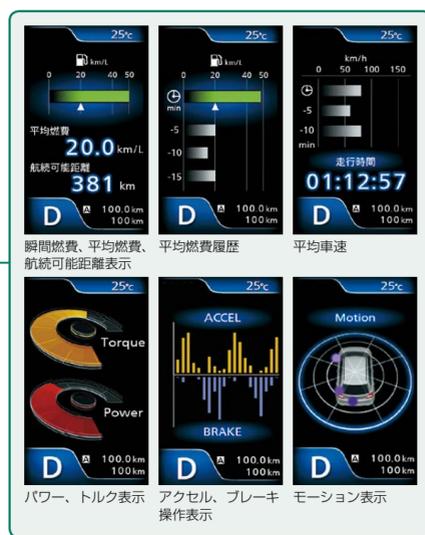


本革シート (XTセットオプション)

1.2ℓのデュアルジェットエンジン+CVT搭載のXG、1.0ℓのブースタージェットエンジン+6速AT搭載のXTの2グレードが用意されるバレーノ。XTにはセットオプション装着車が設定され、本革シート、カラー液晶のマルチインフォメーションディスプレイ、ステアリングオーディオスイッチ、助手席シートヒーターなどが装備される。



メーター、カラー液晶ディスプレイ



瞬間燃費、平均燃費、航続可能距離表示 平均燃費履歴 平均車速 パワー、トルク表示 アクセル、ブレーキ操作表示 モーション表示



デザイン、居住性、走行性能、安全性能を高次元で調和させたコンパクトハッチバック

バレーノ主要諸元表	5ドア	
	XT	XG
駆動方式	2WD(前2輪駆動)	
トランスミッション	6AT	CVT
JCOBモード燃費(km/ℓ)	20.0	24.6
エンジン型式	K10C型	K12C型
エンジン総排気量(ℓ)	0.996	1.242
種類	水冷4サイクル直列3気筒直噴ターボ	水冷4サイクル直列4気筒
エンジン最高出力<ネット>(kW<PS>/rpm)	82<111>/5,500	67<91>/6,000
エンジン最大トルク<ネット>(N・m<kg-m>/rpm)	160<16.3>/1,500-4,000	118<12.0>/4,400
使用燃料	無鉛プレミアムガソリン	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量(ℓ)	37	
全長×全幅×全高(mm)	3,995×1,745×1,470	
ホイールベース(mm)	2,520	
トレッド 前/後(mm)	1,520 / 1,520	1,530 / 1,530
最低地上高(mm)	120	
車両重量(kg)	950	910
最小回転半径(m)	4.9	
室内寸法 長さ×幅×高さ(mm)	1,975×1,440×1,175	
乗車定員(名)	5	
ステアリング	ラック&ピニオン式	
サスペンション	前	マクファーソンストラット式コイルスプリング
	後	トーションビーム式コイルスプリング
ブレーキ	前	ベンチレーテッドディスク
	後	リーディング・トレーリング
タイヤサイズ	185/55R16 83V	175/65R15 84H

●燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、交通渋滞等)や、運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。
●オプション装着によっては車両重量、燃料消費率などが異なります。詳しくは販売店にお問い合わせください。

グローバルコンパクト「バレーノ」について

2015年3月のジュネーブショーにコンセプトモデル「iK-2」として出展され、その半年後の9月には第66回フランクフルトショーでバレーノの名でデビュー。同時期にインドのマルチ・スズキ・インド社で生産が開始されている。2015年10月にはインドで販売が開始され、今後、グローバルコンパクトカーとして日本をはじめ世界のマーケットで販売されることになる。



欧州各地で走行テスト



BALENO

コンパクトを超える居住空間と荷室スペース

ゆとりある居住空間と運転のしやすさ

4mを切る全長ながら2,520mmという長めのホイールベースとしたことで室内の余裕度はコンパクトカーのレベルを超えている。前後の乗員間距離は805mmが確保され、リアシートも大人が寛げる空間を確保。前席もインストルメントパネルの下端を前方に追いやるなど工夫がなされ、窮屈さを感じずにロングドライブを楽しむことができる。一方で全幅が1,700mmを超えていながら最小回転半径は4.9mと小回り性能は損なわれておらず、狭い道での取り回し性もよく、車庫入れなどもスムーズにこなせる。チルト機構はもちろんテレスコピック機構も備えたステアリングにより、体格を問わず最適なポジションを得ることができるのも嬉しい。

大容量荷室スペース・収納

絶妙な室内のレイアウトによって確保された荷室スペース、使う人の視線で考えられた収納スペースの充実度もバレーノの美点のひとつだ。320ℓ（VDA法）を誇る荷室スペースにはベビーカーなどを横置きで搭載することができ、6:4分割のリアシートバックを倒せばさらなる容量アップも可能。荷室を上段・下段に分けて使えるラゲッジボードの存在もありがたい。また、室内の収納スペースに目を移すとセンターコンソールのドリンクホルダーはもちろん、インパネリアポケット、1ℓのペットボトルが置けるセンターコンソール後部のドリンクホルダー、前後ドアのペットボトルホルダーなど実に豊富。散らかりやすいものをしっかり収納して快適な移動空間を保ってくれる。



インパネ (XTセットオプション)



インパネリアポケット (運転席)

フロントドアポケット

グローブボックス

助手席シートバックポケット



充実した荷室スペースを確保



センターコンソールトレイ/センターコンソールドリンクホルダー

センターコンソールドリンクホルダーリア

パドルシフト (XT)

シートヒーター (XTセットオプション)



エクステリア

水面の揺らぎのような曲面を生かした「リキッドフロー (Liquid Flow)」をテーマとしたエクステリアデザインと、ロー&ワイドのフォルムとの融合が特徴のバレーノ。クロームが際立つフロントグリル、流れるようなボディサイドのキャラクターライン、ほどよく張り出した前後フェンダーなどが存在感を際立たせている。さらにキックアップしたリアサイドウィンドウ、大きく傾斜したリアウィンドウが躍動感を醸し出し、ハッチバックスタイルならではのスポーティ感を演出。やや広めの車幅を存分に生かし、グローバルコンパクトカーならではのダイナミックなスタイルを完成させたところに注目したい。

インテリア

やはり「リキッドフロー」をテーマに流麗なフィニッシュで仕上げられたインテリア。ワイドでダイナミックなデザインのインストルメントパネルに加え、クロームメッキ、ピアノブラック、シルバー加飾を効果的に配することで高いクオリティ感を実現。センターコンソールやシフトレバー、ドアトリムにもシックなシルバー加飾が施され、落ち着いた空間で運転を楽しむことができる。視認性に優れた2眼メーターの間にはマルチインフォメーションディスプレイが置かれ、燃費や走行状況などさまざまな情報を常に伝えてくれる。ホールド感に優れたシートは手触りのいいファブリックで、冬の朝などにうれしいシートヒーターを運転席に装備する。



フロントシート (XTセットオプション)

流麗でエレガントなスタイリング



Engineer's Voice

スズキ 第二カーライン アシスタントCE 荒木 慎二さん

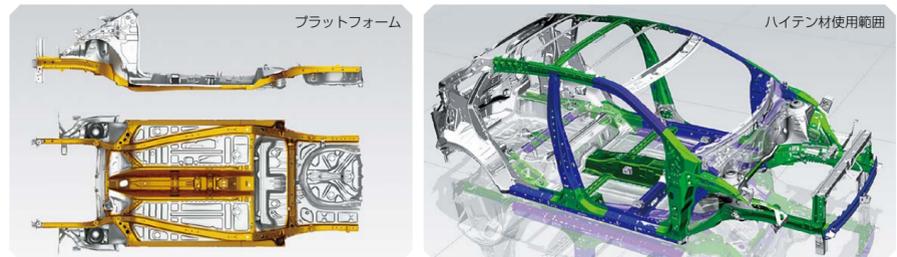
参考出品車を展示した昨年の東京モーターショーでも多くの反響がありましたが、今までのコンパクトカーとはひと味違ったエレガントなスタイルをまず見ていただきたいですね。加えて外観から想像する以上に広い室内、余裕のある座席、荷室の大きさなども確認してください。また、新設計のプラットフォームが生み出す走りの良さや軽快感もバレーノの大きな魅力ですので、ぜひ試乗してステアリングを握り、グローバルコンパクトカーの世界を体感していただきたいですね。

新開発Bセグプラットフォーム

最小クラスよりひと回り大きいコンパクトカーを示す欧州Bセグメントに属するバレーノ。グローバル・マーケットでも需要の高いカテゴリーだが、なみいるライバルに対抗すべく新設計されたプラットフォームの優位性にも注目したい。一から設計されたアンダーボディは骨格部を一段と滑らかに、連続した形状とすることで剛性を保ち、板厚を最適化することで軽量化も図られている。組み合わせられるボディは高張力鋼板の使用比率を46%まで高め、剛性はもちろん、高い安全性能を確保している。サスペンションも新設計され、欧州の道を徹底的に走りこんでセッティング。応答性に優れたキビキビした走りを楽しめると同時に、ロングドライブも苦にならない安定性も兼ね備えている。



サスペンション (左: フロント 右: リア)



プラットフォーム

ハイテン材使用範囲

選べる2つのエンジンと燃費

バレーノには2種類のパワートレインが搭載される。ひとつがすでに定評のある4気筒1.2ℓ自然吸気のK12C型デュアルジェットエンジンで、もうひとつが新設計の3気筒1ℓ直噴ターボのK10C型だ。XGグレードに搭載されるK12C型エンジンは91psと必要十分な出力を持ち、副変速機付きCVTと組み合わせられてJC08モード燃費値24.6km/ℓの低燃費を誇る。一方、XTグレードに搭載されるK10C型エンジンは111psと1.6ℓ車並みの出力を与えられ、パドルシフトによる変速も可能な6速ATが組み合わせられる。自然吸気エンジンならではのナチュラルな走りを楽しむXG、よりパワフルな走りを楽しむXTと、バレーノは2つの個性を選ぶことができる。



K12C型デュアルジェットエンジン

K10C型ブースタージェットエンジン



デュアルジェットイメージ

シリンダー内直接噴射イメージ

新開発K10C型ブースタージェットエンジン—1.6ℓクラスの出力・トルクを実現

新設計の3気筒1ℓ直噴ターボエンジン、K10C型には「ブースタージェットエンジン」の名が与えられ、パワフルながら低燃費の特性が光る。996ccの小排気量ながら直噴化とターボ過給により最高出力111ps/5,500rpm、最大トルク16.3kg・m/1,500-4,000rpmのパフォーマンスを与えられ、JC08モード燃費も20.0km/ℓと優秀。ピストンやコンロッド、クランクシャフトなどの高剛性化を図り、さらに振動・騒音対策を施すことで3気筒エンジンながら優れた静粛性を実現したところも見逃せない。組み合わせられる6速ATは最適のギア比により加速感と高速走行時の低燃費を両立。パドルシフトの操作で積極的に走りを楽しむこともできるスポーティさもあわせ持つ。

新型ブースタージェットエンジンで 余裕の走り



Body Color



プレミアムシルバーメタリック3

アークティックホワイトパール

ミッドナイトブラックパール

アーバンブルーパールメタリック

ファイヤーレッド

オータムオレンジパールメタリック

レイブルーパールメタリック